

自動コーナーカット機の導入で、 手加工作業をなくし、生産効率をアップ

梱包資材を取り扱う同社は、需要の高い食品袋や薬袋の加工を一部手加工に頼っていたため、生産性に課題があった。工程のインライン化を図るため、自動コーナーカット機「インライン角丸君」を導入。人の手によるアウトラインでの手加工作業がなくなり、出荷までの作業時間が従来の1/3近くに短縮された。

株式会社藤井包材

- 代 表 者／代表取締役 藤井 啓一
- 設 立／昭和3年
- 所 在 地／八代市川田町東263
- 資 本 金／1,000万円
- 従業員数／23人

- 業 種／紙・プラスチック製品製造業
- T E L／0965-53-6292
- F A X／0965-39-0337
- U R L／<http://www.fujii-houzai.co.jp/>

事業課題と申請の経緯 手加工作業で、生産効率に課題

当社は、製袋加工、シート加工、スリット加工、また、セロパッキン、紙パッキン、セロ縄、PP縄の製造、紙管加工、梱包資材など、各種包装資材を取り扱っている。フィルムを加工する製袋加工においては、様々な形状の袋が作られる。例えば三方袋と呼ばれる一般的な平袋、平袋の底にマチを付けた自立性のあるスタンド袋、また、それぞれの袋に再開封性の機能を持たせたチャック三方袋やチャックスタンド袋などがある。これらは、様々な

用途に対応でき、密封性も高いため、食品や薬品、化粧品の包装などに用いられ、需要が高い。さらに近年は、様々な用途で使用される袋に対して、尖った袋の角を丸くカットする「コーナーカット」の要望が高まっている。これは角が他の製品を傷つけたり、触れてケガをしたりするのを防止するためのものだが、当初この作業をアウトライン(手加工による後作業)で行っていたため、生産性の向上に課題があり、新機器の導入を行った。



自動コーナーカット機「インライン角丸君」



角を丸く加工したチャックスタンド袋

課題解決のプロセスと成果

機器導入により、作業時間が大幅に短縮

今回、自動コーナーカット機「インライン角丸君」を導入することにより、インラインでの加工が可能になり、生産性が向上。今後増加する“コーナーカット指定”の袋の製造がインラインで可能になった。これまで、三方やスタンドという形の袋を作った後で、手加工でコーナーカットをしていたが、今回の機械を導入したことで、人の手による手加工作業が

なくなった。このユニット(今回の機械装置)を設置したことで、袋として仕上がった1枚1枚の製品をコンピュータ制御でピッチを管理することができ、一定ピッチでのコーナーカット加工をインラインで施すことが可能になり、アウトラインで行っていた手作業によるコーナーカットは無くなり、出荷までの作業時間が従来の1/3近くに短縮された。

今後の展望

安全・安心なクリーンな環境で

時代の流れとともに変化を続けてきた当社は、「お客さまのニーズに応えるべく、クリーンな環境で包装資材を製造する」ことを目的に、新しい設備・工場を建設した。その一方で、「需要がある限り供給責任を果たす」ことも重要で、従来の干し柿用の縄作りや、セロパッキ

ン・紙パッキンも丁寧に作り続ける必要がある。「小さな需要に誠意をもって応える」をモットーにこれからも衛生管理と品質管理の水準を上げ、お客様の喜ぶ顔を想像しながら製品作りに努めたい。

求める事業パートナーと支援策

食品、医薬品分野の要望に応えたい

当社が加工している製品は、直接、人の口に触れるものではない。しかし、食品や医薬品などの内容物を直接包装するための製品である。食の安全・安心に携わる一つの企業として、お客

様に、商品を安全にお届けし、安心して使用して頂けるよう、より衛生的な環境で、細心の注意を払い作業を行っていききたい。またさまざまな食品、医薬品業界の要望に応えていききたい。



株式会社藤井包材

小さな需要にも
誠意を持って
応えたい



常務取締役 藤井 雄一氏